

地域からの意見

1 相談体制		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	<ul style="list-style-type: none"> ●受診・相談コールセンターから119番通報の指示による救急要請増加に伴い、救急隊の対応がひっ迫した。 ●救急要請が必要となる場合の関係機関の連携が必要。 ●担当者によって異なる対応が見受けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●24時間体制のコールセンターの設置 ●外国人対応
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ●受診・相談コールセンターに電話が繋がらない。 ●日中であっても、保健所に電話が繋がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●24時間体制のコールセンターの設置 ●外国人対応
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ●医師会を含めた横のつながりの不足 ●地域施設での適切な感染対策の不足 ●感染対策に係る相談のワンストップ窓口の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●病院間調整センターの設置 ●個人的な感染症専門医や感染管理看護師との連携 ●医療機関と保健所との顔の見える関係の構築 ●県ホームページ上での情報発信
医師会	<ul style="list-style-type: none"> ●電話が繋がらない ●夜間対応、専門的対応及び救急時対応の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ●受診・相談コールセンターの設置
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●パンデミック時の迅速な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●受診・相談コールセンターの設置 ●県ホームページ上での情報発信
2 検査体制		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	<ul style="list-style-type: none"> ●救急車内での検査による救急車のひっ迫 ●検査後の医療機関等への受診依頼の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ●発熱外来の設置
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ●PCR検査センターでの看護師需要の高まりによる現場看護師の負担増加 ●高齢者施設における検査実施の準備不足 	<ul style="list-style-type: none"> ●薬局での無料検査の実施 ●保健所からの抗原検査キットの配付 ●医師会と連携しPCR検査センターを設置
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ●検査キットの不足 ●発熱者と一般患者の動線管理が困難 ●休日における医療機関での受診及び検査の需要の偏り ●医療機関に応じた検査体制の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健所からの抗原検査キットの配付 ●看護師や臨床検査技師との連携による検査体制の確立 ●施設での集団検査対応医療機関の増加
医師会	<ul style="list-style-type: none"> ●検査キットの不足 ●県内の検査体制充実後のPCR検査センター稼働の要否 	<ul style="list-style-type: none"> ●専門科以外の医師の協力による検査体制の充実
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●PCR検査に要する時間の短縮化 	<ul style="list-style-type: none"> ●検査対応医療機関の増加
3 医療提供体制（入院）		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防		<ul style="list-style-type: none"> ●多野藤岡地域における病床の充実 ●病院間調整センターによる全県一区の入院調整
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ●病床確保に係る補助金の見直し ●医療従事者の負担 	<ul style="list-style-type: none"> ●多野藤岡地域における病床の充実 ●病院間調整センターによる全県一区の入院調整
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ●公立病院におけるコロナ病床の確保増加 ●医療機関の役割に応じた重症度別の入院調整 ●病院間調整センター廃止後の入院調整 	<ul style="list-style-type: none"> ●病院間調整センターによる全県一区の入院調整 ●国立病院による中等症患者の入院受入 ●ひっ迫時の保健所対応
医師会	<ul style="list-style-type: none"> ●病床ひっ迫時の相談先が不明確 	<ul style="list-style-type: none"> ●病院間調整センターによる全県一区の入院調整
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●専用病床の増加 ●C-MATの普及活動 ●感染管理者のいない施設における感染防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ●専用病床の確保 ●医療・介護施設におけるクラスター発生早期のC-MAT介入による感染防止対策

4 医療提供体制（外来）		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	●パンデミック時におけるかかりつけ医療機関での受診対応の拡充	●群馬県統合型医療システムでの受入可能人数や専用病床空き情報等の閲覧 ●発熱外来の設置
市町村	●医療従事者の負担増加 ●発熱外来医療機関の非公表 ●初期における帰国者接触者外来の不足 ●検査前提の受診調整により受診までに時間を要した	●吾妻地域に帰国者接触者外来が2か所設置された ●発熱外来対応医療機関の一覧の公表
医療機関	●基幹病院による発熱外来の一括引き受け ●一般診療と感染症診療を並行して行う設備と人員 ●スタッフの感染対策の意識の不足 ●検査陰性後の精査、加療の不足	●BOXCT等の感染対策体制の整備に係る補助金の交付
医師会	●地元病院での入院不可による他地域への転院 ●個人防護具の不足 ●医療機関の対応時間等の情報提供不足 ●医療機関における張り紙等を無視して来院する患者	●個人医院、日曜当番医の発熱外来の実施 ●高崎市地域医療センターでの土曜休日発熱外来の実施 ●高崎総合医療センターでの発熱外来の実施
その他	●治療薬の開発	●発熱外来対応医療機関の増加
5 移送		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	●感染防止対策徹底のため、県からアイソレーター等を支給して欲しい ●消防の協力範囲の検討 ●民間移送機関の拡充	●病院間調整センターによる全県一区の入院調整 ●陽性者移送に係る保健所との連携に基づく搬送先の決定 ●医療機関や担当者の担当病床決定による情報錯綜の防止
市町村	●受診困難者用の車両確保（運転手含む） ●観光宿泊客の対応（夜間対応、車両確保等）	●保健所での感染予防対策済み車両の見学
医療機関	●患者搬送先の決定に時間を要した ●専用の動線の確保が困難な医療機関の対応 ●移送方法がわからず救急要請してしまうケースへの対応	●救急隊や民間移送機関の積極的な対応 ●設備がない中での動線の確保
医師会	●搬送先病院が決定したにもかかわらず、保健所の指示待ちにより、救急隊が搬送できず、看護師が救急車内で保健所に確認を取りながら搬送し、時間を要した	
その他	●迅速な患者の受入	●消防の協力
6 宿泊療養		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	●救急搬送困難時における一時待機場所としての宿泊施設の活用検討	●家庭内感染防止に効果的 ●7ホテルでの看護師への相談体制の構築 ●救急対応や災害対応時の動線が確保されていた
市町村		●個別での子どもの食事対応
医療機関	●年齢や症状によらず、一人暮らしや生活が分けられない方、医療・介護従事者の家族等は宿泊療養対象に拡大してほしい	●役割を十分に果たした。
医師会	●薬剤は医療機関の持ち寄りとなり、共有体制が不明確かつ不十分	●24時間体制で観察が可能 ●ある程度の医療提供が可能
その他	●パンデミック時の宿泊療養施設の案内	●宿泊療養施設の確保 ●無症状者及び軽症者の健康管理や不安軽減等の看護業務が担えた

7 自宅療養		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭内感染のリスク ●医療介入の遅れ ●電話連絡が取れない場合の安否確認 ●届出対象外の自宅療養者へのフォロー ●低SPO2時の対応（自宅療養者の対応フローの検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅療養者へのパルスオキシメーターや支援物資の発送 ●重症化リスク別での対応フローの提示
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ●生活用品等の購入環境の整備 ●財政やマンパワーによる自治体間での対応の差 ●支援物資発送の要否の見極め ●保健所への電話不通に係る苦情 ●パルスオキシメーターの返却方法が不明瞭 ●支援物資の配送の遅延 ●支援物資の案内の有無 ●備蓄や周囲の協力体制で個人が準備すべき意識が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ●物資支援の継続 ●保健所からの情報提供により物資不足者への迅速な対応が可能だった
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ医の利用促進による保健所負担の軽減 ●家庭内での対策方法等の理解促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅療養期間の短縮
医師会	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅療養時における増悪時の即応的な対応が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅療養者へのパルスオキシメーターの貸与
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●自治体間でのフォローアップの差 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康フォローアップセンターの設置
8 施設内療養		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者施設でのクラスター発生時の嘱託医との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ●C-MAT派遣による感染拡大防止支援 ●施設内療養による病床のひっ迫軽減 ●施設職員による継続的なケア
市町村		<ul style="list-style-type: none"> ●C-MAT派遣による感染拡大防止支援
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ●往診体制の充実 ●高齢者施設での保健所や医療機関との連携 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●5類移行後の定期的な検査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員のスクリーニング検査の実施
9 保健所体制		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	<ul style="list-style-type: none"> ●保健所指示に基づく个人防护具着用に係る救急隊の資機材不足 ●保健所の夜間対応の2交代制実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健所との協力体制の構築 ●防護服の提供 ●感染性廃棄物の処理 ●統合型医療情報システムでの入院調整による対応時間の短縮
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ●繁忙時の職員不足、人員配置 ●保健所の対応力を上回る多忙 	<ul style="list-style-type: none"> ●市町村との密接な連携、情報共有
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ●調査や相談対応に十分な人員の確保 ●管轄外患者の情報連絡等を保健所対応としてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ●平時からの連携が有事に生かされた ●施設内クラスター対応時の様々な検証に基づく施設ごとの必要な支援の実施
医師会	<ul style="list-style-type: none"> ●パンデミック時の医療機関への情報提供の遅れ ●発生届のFAX、HER-SYS入力対応に追われ、患者への聞き取りの遅れがあった ●保健所職員の負担が非常に重く、応援体制の速やかな整備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●わからないことは保健所に相談すればよい、という安心感 ●帰国者・接触者相談センターが受診・相談コールセンターや医師会の発熱外来等と連携できた
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●パンデミック時の迅速な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●入院・宿泊・自宅療養のフォローアップ

10 ワクチン接種		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	●ワクチン会場が密	●大規模接種センターによる集団接種の実施 ●医療従事者等へのワクチンの優先接種
市町村	●個別接種への移行 ●通常の冷蔵庫でも保管可能なワクチンの開発 ●今後のワクチン接種率の低下 ●体育館等での集団接種時における準備等の職員負担 ●予約システムの対応の遅れ ●接種開始に係る県と市町村の調整不足による混乱 ●予約しやすい運営方法 ●医療従事者の確保	●都市医師会と協力した接種体制の構築 ●当時利用の少なかったモデルナワクチンを活用した迅速な県営接種センターの立ち上げ、運営、夜間・土日対応 ●ワクチン接種後の副反応に係る24時間対応の相談窓口の設置 ●LINEを活用した予約システムの構築
医療機関	●ワクチン接種予約のキャンセル管理 ●基幹病院職員への優先接種による診療所職員への接種遅延 ●ワクチン接種希望者の減少	●大規模接種会場と医療機関を併用した接種体制による効率的なワクチン接種の実施 ●コールセンターでの予約対応 ●ワクチン接種体制の構築
医師会	●3回以上ワクチン接種している若者の数が少ないため、5類になってから増加傾向 ●接種開始の遅延 ●扱いづらい注射器、注射針	●大規模接種会場と医療機関を併用した接種体制による効率的なワクチン接種の実施
その他	●今後も無料でワクチンが接種できる体制の構築 ●若い世代へのワクチン接種に係る普及啓発	●大規模接種会場と医療機関を併用した接種体制による効率的なワクチン接種の実施
11 人材育成・資質向上		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	●早期に関係機関へC-MATを派遣し感染対策を指導できる体制を整備	●保健所、医療機関、警察等と合同実施したPPE着脱訓練 ●救急業務を通じ、感染症対応を再考できた
市町村		●市町村保健師の早期派遣 ●応援派遣による保健所での従事
医療機関	●感染管理認定看護師の養成が困難 ●看護学校の実習が無くなったことによる、看護師の社会人としての心得やコミュニケーション能力の低下 ●クラスター対策をICNに頼りきりな施設 ●行政における疫学と感染対策の専門家の育成 ●保健所の疫学の専門家と医療機関の感染症担当者との連携	●感染管理認定看護師教育課程の県内開設によるICN増加 ●職員の感染対策の意識向上
医師会	●人と物資の迅速な応援体制の整備	●PPE着脱のレクチャー、アナフィラキシー対応マニュアルの迅速な配付等 ●事務を含むメディカルの感染症に対する意識向上
その他	●平時から感染管理の基本や取組を考え実践できる人材の育成	●動画等による教育や情報発信により理解が深まった
12 関係機関との連携		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	●搬送迅速化のための高齢者施設等におけるクラスター発生情報の事前提供 ●保健所ではなく、感染者が直接救急要請することにより、感染者と認識できなかった ●感染症指定医療機関数と感染状況に応じた医療圏を越えた搬送・病院選定の連携	●保健所との24時間連絡体制の構築 ●保健所、病院間調整センター、消防等での連携
市町村	●休日対応	●都市医師会との連携による医療機関へのスムーズなマスク等の供給
医療機関	●FAXによる陽性者報告 ●保健所を通じた転院であるため、医師と医療機関の情報共有が困難 ●関係会議をオンライン化 ●SNSを活用した連絡方法の検討 ●連携の仕方がわからない	●医療機関と保健所の連携 ●平時からの顔の見える関係の構築
医師会		●医療機関との連携によるワクチンの廃棄削減
その他		●自治体と医療従事者が連携した集団接種の実施

13 情報の公開・リスクコミュニケーション		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	●感染者の陽性者番号の失念による医療機関等での照合が困難	●陽性者の附番 ●陽性者数の公表
市町村	●市町村を競わせるような公表 ●陽性者の公表の遅滞 ●住民からの「患者や流行地域の情報が少ない」という苦情	●個人情報の取扱に配慮した必要な情報の提供 ●県内の検査可能な医療機関の公表 ●県の公表前の事前の情報提供
医療機関	●どこでだれが何人が感染した、といった情報の要否 ●定点観測では実態が掴めず、危険感を判断できない ●行政、関係施設、医師会等の地域の関係者による有事を想定した新型インフルエンザ医療提供訓練の実施 ●学校の感染者数の不公表	
医師会	●若者のワクチン摂取率向上に資する積極的な情報提供 ●感染初期における感染者発生医療機関の情報公表 ●保育園や学校の職員が感染原因と思われるような報道	●日々感染者数が公表され、診療体制の目安となった
その他	●定期的な感染状況の情報提供	●感染状況の公表
14 その他		
団体名	課題と思われる点	良かった点
消防	●新興感染症発生時の感染拡大防止対策と各機関の初動 ●高齢者施設の陽性者の救急要請において、収容先や入院先の調整がつかず、救急車内で酸素投与をするうちに、SPO2が回復し、結局施設で様子を見ることとなったケースがあった。 ●病院受診等での患者移動における感染対策を実施した公共交通機関との連携	
市町村	●国によるマスク配付 ●ワクチン手帳の導入準備期間の不足	●研修や会議のオンライン化 ●国の頻回な対応変更に対応する県職員
医療機関	●変異株発生時における行政主導の調整 ●補助金や制度に関する情報の郵送の継続 ●医療機関間での連携の温度差 ●オール群馬で負担できるよう、人材交流を含めた対策本部の設置、運営	●病院間調整センターによる全県一区の入院調整
その他	●医療職や有資格者でなくても短期間の研修等で非常時に対応できる業務を考慮する必要がある	●感染防止対策が理解でき、医療・検査体制が整備された ●国、県、市町村の具体的でわかりやすい情報発信
15 自由記載		
団体名	課題と思われる点	良かった点
市町村	●緊急時に対応できる国産国消の物資確保体制の整備 ●感染者が県保健所と市町村保健センターを混同していた	
医療機関	●陽性者の仕事復帰の基準	
医師会	●カルテの枝番作成、レセプト作成が煩雑	